

地域密着型サービス

若い時の知り合いと恵の家で再会

若い時に農協の地区の役を同時期に勤めていたというお二人が恵の家で再会されました。お互いに「昔からいい男だったね。」「昔から真面目な男だった。」「とお互いを褒めあったり、「〇〇さんはどうしてるかな？もう亡くなったか。」「と同時期に役を勤めていた共通の知人の話をされていたり「会議なんて言っただって、その後に飲みに行くの目的だったりでねえ」と若かりし頃を振り返っていました。振り返っていましたが、毎日、数分おきにその他の同じ話題を楽しそうに話をされています。職員が話の流れを覚えてしまうほどですが、利用者さんにとってはその瞬間その瞬間が常に新鮮な時間を過ごされているようです。また、そのお二人が会話をしていることで、今まであまり会話をしなかった方も「俺は〇〇町だけど俺も〇〇さんと若い頃に一緒に近所回ったりしたことがあったよね？」と会話に参加することが増えたり、近くで聞いていた女性の利用者さんも会話に参加して共通の知人の話をされています。同じ地域で同じ時代を生きて来た人同士だからこそできる会話がとても貴重で素敵な時間だと感じています。

まさに産地直送、地産地消

グループホーム恵の家は平成14年8月に開設した時から、近所の方が「これ食べるかい？」と野菜や果物を届けてくれたり、職員も近所の方からいっぱいもらったからと持ってきてくれることがあります。今年も写真のようにスイカが届いたり枝豆、トウモロコシ、キュウリなど色々な野菜を寄付していただくことが多いので、今の物価高の中で本当に助かっています。



↑指で叩いて「おお、これはいい音だ。食べごろだな」と人生の大ベテランの感覚でお墨付きのスイカが届きました。「私はさんざん作った。だからスイカは好きじゃないんだよ。」というこという方もいます。

運営推進委員

グループホームと小規模多機能ホームには、およそ2カ月に1回の割合で運営推進会議を行っています。沼田市の介護保険系の職員の方、在宅介護支援センターゆうゆう・うちだの職員の方と沼須町区長、沼須町民生児童委員、保健推進委員と年2回はデイサービス太介庵さんと共同開催しています。閉鎖的になりがちな「介護施設」が地域に開かれた場所であることなどを目的にしています。



沼須町区長 歴代の沼須町区長さんには、4月の一切経で恵の家にも回ってくれたり、恵の家が沼須町に溶け込めるようにサポートしていただき毎年助けていただいています。恵の家から沼須町のメインストリートへの出口の見通しが悪く困っていた時には沼田市に連絡してカーブミラーを設置していただいたこともあります。

民生児童委員 民生児童委員さんは地域の高齢者の一人暮らしの方を訪問されるなど、地域のご高齢方々を把握されています。守秘義務などがある為、ダイレクトに恵の家を紹介したり、してもらうことは無いのですが、様々な段階を踏んで結果的に民生委員さんが気にかけていた方が恵の家の利用者さんになることがあります。

保健推進委員 保健推進委員さんには民生委員さんとともに「沼須町いきいきサロン」でもお世話にしています。いきいきサロンでは利用者さんだけでなく職員にも気軽に声をかけていただけていて、恵の家が地域に溶け込めるようにサポートしていただいています。